

## 案件概要書

2019年4月23日

**1. 基本情報**

- (1) 国名：バングラデシュ人民共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：チッタゴン管区チッタゴン県及びコックスバザール県
- (3) 案件名：チッタゴンーコックスバザール道路整備計画（Chittagong – Cox’s Bazar Highway Improvement Project）
- (4) 計画の要約：  
本計画は、国道1号線のチッタゴンーコックスバザール間の主要混雑区間にフライオーバー（立体交差点）及びバイパス道路等を建設しマタバリ港の道路アクセスと交通安全の改善を図り、同港の利用促進と沿線地域の経済発展に寄与することを目的とする。

**2. 計画の背景と必要性**

- (1) 本計画を実施する外交的意義

伝統的な親日国であるバングラデシュは、民主主義の定着に努める穏健なイスラムの民主主義国であり、近年7%程度の堅調な経済成長を遂げており、進出する日本企業数も増加している（過去7年間で約3倍）。他方、インフラの未整備や社会開発の後れといった課題を抱えており、同国の社会・経済の発展及び安定につながる本件支援は、本邦企業の活動促進や地域の平和と安定にとって重要である。

2014年の日・バングラデシュ首脳会談では、両首脳間で、経済インフラの開発、投資環境の改善、連結性の向上を柱とする「ベンガル湾産業成長地帯（BIG-B）」構想を推進することで合意した。本計画は、現在円借款で建設を支援しているマタバリ港からチッタゴンひいてはダッカへの円滑な物流を確保し、バングラデシュの経済成長の加速化に貢献するものであり、首脳会談のフォローアップとして重要である。また、本計画は、「自由で開かれたインド太平洋」構想における連結性の向上等による経済的繁栄の追求に資する案件である。

- (2) 当該国における道路セクターの現状・課題及び本計画の位置付け

同国では、過去10年以上に亘る年率6%強のGDP成長に伴い交通需要が拡大する中、全交通の大部分を占める道路セクターは、当国の経済成長上重要な位置を占めている。当国の道路マスタープラン（2009年）では、ダッカからチッタゴンを経てコックスバザールに至る国道1号線（以下、「N1」という。）は、主要都市を結ぶ最も重要な幹線道路に位置付けられている。しかし、N1のチッタゴン以南の区間は片側1車線道路で、特に市街地区間では幅員が狭いうえ、路肩の幅も十分でなく、同一車線上にリキシャ（自転車タクシー）や自動車等が混在している。そのため、走行速度が低下するとともに、バスやリキシャの乗客の乗降が車道上で行われること等により交通渋滞及び交通安全上の問題が生じている。

さらに、円借款によりコックスバザール県に建設を支援しているマタバリ港の開

港後には、N1 は同港からチッタゴンやダッカに向けた貨物輸送の要衝となるため、同港の貨物需要を喚起するためには、港から最大消費地・生産地であるダッカやチッタゴンへの円滑な交通の確保が必要不可欠である。

同国政府の「第7次五か年計画」（2016/17～2020/21年度）、「道路マスタープラン」（2009年）等各種政策では、経済成長目標達成のために道路の質及び交通安全の向上が掲げられており、そのための主要国道等の修繕及び改修を最優先事項としている。本計画は、N1のチッタゴンーコックスバザール区間のボトルネックとなる区間においてフライオーバー及びバイパス道路等を建設し、交通の円滑化と交通安全の向上に貢献するものであり、これら政策と合致する。

### 3. 計画概要

#### (1) 計画概要

##### ① 計画内容

ア) 道路改良（市街地区間5か所におけるフライオーバー及びバイパス道路等の建設）（詳細は本調査にて確認。）

イ) コンサルティング・サービス（F/S レビュー，詳細設計，入札補助，施工監理等）（ショート・リスト方式）

##### ② 期待される開発効果

マタバリ港の道路アクセスと交通安全の向上，マタバリ港の利用促進，沿線地域の経済発展，渋滞緩和による温室効果ガス排出量の削減。

##### ③ 借入人：バングラデシュ人民共和国政府

##### ④ 計画実施機関／実施体制：道路交通橋梁省道路・国道部

##### ⑤ 他機関との連携・役割分担：本調査で検討。

##### ⑥ 運営／維持管理体制：道路交通橋梁省道路・国道部が担当予定。

#### (2) その他特記事項

① アジア開発銀行が2014年にチッタゴン-テクナフ間のN1道路改修に係るF/S及び詳細設計を実施したが、その後ADBが鉄道整備を優先する方針に変更したこと等により、事業化に至っていない。

② 環境社会配慮：本計画は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）に掲げる道路・セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大ではないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないためカテゴリBに分類する。

③ ジェンダー分類は、GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）に該当し、本調査にてジェンダー主流化ニーズを確認する。

④ 本邦技術の活用：フライオーバー建設の施工方法等に関し、本邦技術の活用可能性を本調査で検討予定。

### 4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

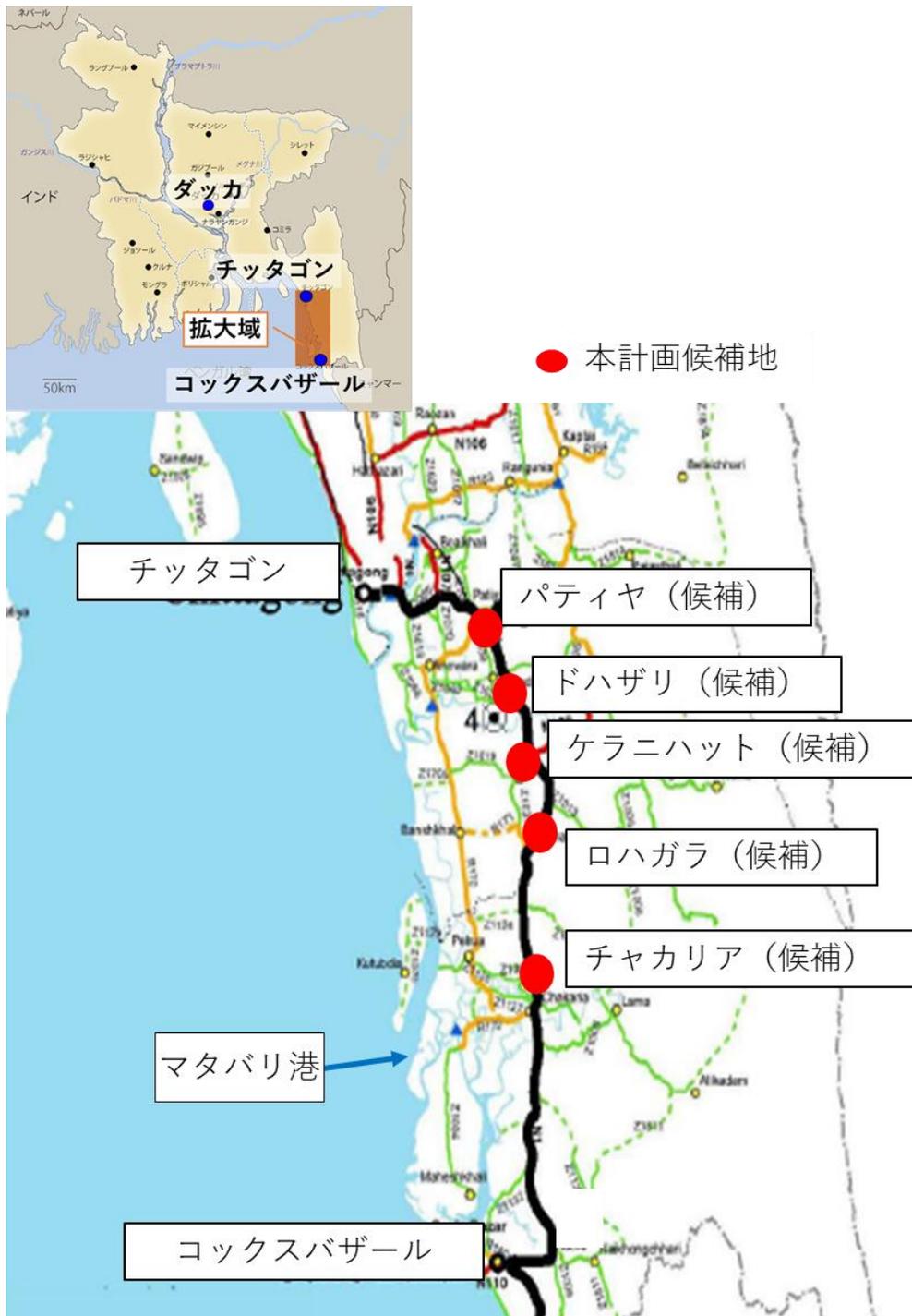
モロッコ「カサブランカ市南部バイパス建設事業」の事後評価等から、バイパス道路を建設する場合、地域分断の観点から、最新の現場情報を反映した設計図面に基づくアクションプランを作成し、地域住民への情報開示、事前協議を十分に行い、

必要な数の横断構造物を計画・設計に取り入れることが重要との教訓が得られている。これを踏まえ、地域住民への事業説明及び事前協議を行い、地域住民の意見を構造物の計画・設計に反映できるよう案件形成を行う。

以 上

[別添資料] 地図

チッタゴンーコックスバザール道路整備計画 地図



出典：JICA